



本山錦織寺



# 慈光

年 末 号

- ①お知らせ
- ②除夜会のお知らせ
- ③平成三十年予定
- ④住職のコラム

## ○除夜の鐘

三十一日午後十一時三十分より寺族役員から打ち始め、お詣りの方全員に鐘をうらごういただきます。詳細は二頁をご覧ください。

## ○冬期間のお詣り

ここ数年、札幌周辺ではドカ雪による交通渋滞、除雪対応の問題からお詣りへ向かっても車が通れなかったり、皆様には大変ご迷惑をおかけしております。冬期間、お詣りをお休みの場合もあるかもしれません。その節は大変申し訳ありません。

## ○寺報『慈光』の発行回数について

年に四回発行予定のお寺のお知らせ『慈光』ですが、正式に郵便料金の値上げ通知がありました。残念ながら、来年から発行回数を減らします。前号でお知らせをいたしましたのが、春号（三月始め）、秋号（八月末から九月初め）、年末号（十一月中頃）となります。お盆詣りのお知らせは、来年からは封書、葉書の場合もありでのお知らせをいたします。

## ○年末年始の法務

年内は二十八日までお詣りいたします。年が明けて六日から五日道新文化センター新年の講座担当になってしまいました外詣りを始めます。

①

②  
○除夜会

十二月三十一日(日) 午後十一時半より  
午後十一時頃から本堂で整理券を配ります。順番  
が来るまで本堂でお待ち下さい。

○修正会

平成三十年一月一日(月)午前一時頃から

除夜会の様子から、法要が早まる場合があります。

○真宗木辺派本山錦織寺内 慈光寺専用墓所

去る十一月二十六日、滋賀県野洲市にある真宗木辺派  
本山錦織寺へ上山してきました。御正忌報恩講のため  
ですが、その際に、慈光寺専用墓所へのお詣りもしまし  
た。様子は慈光寺ホームページにあるFacebookでお知らせ  
をしております。

私たち寺族は、年に一度、私は年に最低一度は上山し  
て、本山の慈光寺墓所へお詣りをします。この墓所は、慈  
光寺の永代墓所となっております。本山へ分骨をしたい  
方や、今後、係累の方と疎遠になるかもしれない方のため

でもあります。第三代住職廣喜の遺骨も分骨しております。

近くに墓所がある方がいいと、おっしゃる方もいらっしゃ  
います。果たして何年、お詣りに行くことが出来るでしょ  
うか。また合同墓所にお詣りに行くのでしょうか。合同法要の  
案内があれば、行くのかもしれませんが、きっと仏壇でお詣  
りするのではないのでしょうか。慈光寺では、春と秋のお彼岸  
に、永代経として、毎年お詣りしております。

日本人には、遺骨信仰が根強い傾向が見られます。様々  
な事情から、家に遺骨を置かなくてはならないという話を聞  
きますが、私はいつまでも  
納骨をしないのは、お勧め  
しておりません。我が家が  
あるようにしくなられた方  
にも家があるからです。

慈光寺専用墓所は、札幌  
からは遠いかも知れませ  
んが、仏様は近くにいらっ  
ます。永代墓所の納骨につ  
いて、是非お寺にご相談下  
さい。



○平成三十年度行事予定

一月一日(月)

修正会

三月二〇日(水) 二十一日(木)

春季彼岸永代経法要

五月二十七日(日)

慈光寺婦人会一〇周年記念姜暁艶コンサート

六月九日(土)

公開講演会 演題未定

八月十三日(月) 十五日(水)

盆会 納骨堂法要

九月二十二日(土) 二十三日(日)

秋季彼岸永代経法要

十月二日(水) 三日(木)

宗祖親鸞聖人報恩講

十一月 日程未定

追弔会 公開講座

十二月三十一日(月)

除夜会

○布教予定日 午後二時半より

六月一日(金)

七月一日(日)

九月一日(土)

十二月一日(土)

※年五回を予定。開始時間の変更り。

※法中 お寺さんでの勉強会開催中。月1回予定 冬期間休会(日あり)

○平成三十年慈光寺協力の行事

五月二十六日(土) 小樽潜龍寺 住職仏前結婚式

十一月十一日(日) (予定)

アルバドロスデンカ主催 「アツサリバンショー」の会場

冬期間は足下が悪いので、布教日はありません。

来年の諸行事の中で、五月二十七日の姜暁艶様の「胡弓コンサート」が大きなものとなります。平成二十八年八月に始めてのご縁をいただき、大変盛況で、慈光寺始まって以来、一般の方も参加いただき、満堂と成りました。そのご縁から姜様に、また御来院いただけることになりました。この度は、お檀家様のみならず、各方面に宣伝をします。

姜様は、全国的にも大変な人気です。詳細が決まりましたら、追ってお知らせをします。お檀家様を優先としますので、席の予約など承る予定です。



株式会社

博善社

札幌中央区南14条西7丁目

011-512-1111

### 住職さんにきいてみよう その41 十二光仏

『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』を「浄土三部経」といいます。私たちにとっての根本聖典です。その中で、開祖親鸞聖人は、『無量寿経』をもっとも重視しました。こころばらく、小難しいことを書いておりますが、前回の最後に書きましたことを少し思い出して下さい。

『無量寿経』の上巻には、四十八の願いを立て、その中で第十七と第十八、とくに第十八願を何よりも重視しています。阿弥陀仏は私たちに見ることはできませんが、私たちの仏壇の本尊は光り輝く光背が仏様を象徴しています。それは十二の光があるといえます。

①無量光。量ることのできない光。②無辺光。際限のない光。③無碍光。何ものにも遮られない光。④無対光。比べるものがない光。⑤炎王光。最上の輝きをもつ光。⑥清浄光。清らかな光。⑦歓喜光。衆生の怒りを取り除き歓びを与える光。⑧智慧光。衆生の迷いを除いて智慧を与える光。⑨不断光。常に照らす光。⑩難思光。おもいはかることができない光。⑪無称光。説きつくすことができない光。⑫超日月光。太陽や月よりもすぐれた光。以上の十二の光を言います。本当

にそんな光を放っているお姿をしているのかどうかなど、私たちには知るすべがありません。しかし、光背の光のように、すべての世界を常に照らしているのが阿弥陀様と言われております。

では、何か私たちがしなくてはいけないのかというと、これもまた何もできませんし、これだけ計り知れない光り輝く阿弥陀仏の姿であれば、私たちの思いは足下にもおよびません。ですから、何もする必要がないのです。また親鸞聖人は、こうしろああしろ、と言うことは、何もおっしゃっていません。これが浄土真宗の一番難しいことかもしれません。

目的を示してもらわないと、私たちの心は、好き勝手に判断をしてしまいます。浄土真宗には明確な目標はありません。究極は「みな仏に成る」ことでしょうか。我々には想像もつかない阿弥陀仏に対して、ただひたすら寄りかかることしかできないのではないのでしょうか。あえて「目標」というと、一日を大切に生きることでしょう。その一日の中にも、何を目標としていたら良いのかというと、人それぞれであると思いますし、それでいいのではないかと感じます。

あつという間に、一年が過ぎますね。昨年の12月札幌は、記録的な大雪で交通機関が麻痺しましたね。今年は平年並みであればいいなと。来年も**伝統行事の他**にいろいろ予定しております。皆さんからいただいている維持年会費と志納で諸行事が行えますので、お気軽にお寺に遊びに来て下さい。合掌